



地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

9条地球憲章の会 第35回 公開研究会

山根 和代さんの講演

平和学の研究から平和教育へ

—「平和のための博物館」づくりの内外の知見を基に—



山根 和代 (やまね かずよ)

山口県大島郡生まれ

英国 University of Bradford 大学院博士課程修了(平和学)

立命館大学 国際関係学部 准教授(平和学)を経て、現在立命館大学客員研究員&国際平和ミュージアム専門委員

INMP(平和のための博物館国際ネットワーク)顧問、平和のための博物館市民ネットワーク顧問

【著書】

Grassroots Museums for Peace in Japan(ドイツのVDM出版、2009年)

【共著】

Museums for Peace Worldwide(アメリカのLulu 2020)&『世界における平和のための博物館』(国際平和ミュージアム2020年)両方ともINMPのHPで入手可。

<https://sites.google.com/view/inmp-2020/museums-for-peace-worldwide?authuser=0> 世界の平和博物館303館紹介(日本は84館)

Peace Studies in the Chinese Century(イギリスのAshgate出版2006年)

『世界の平和博物館』(日本図書センター1995年)

『日系アメリカ文学を読む——三世の軌跡』(創元社1997)

2023年

10月16日(月) 午後6時30分~8時30分

オンラインZOOMによる開催 参加費;1000円

参加申込みは、次のURLか、右のQRコードよりお願いします。

<https://forms.gle/LRy2Ekkk9UV8K6qA6>



現在、核戦争の危機、原発問題、地球の温暖化、人権の蹂躪問題など、様々な問題が存在している。平和学では、どのように問題の解決をしようとしているのだろうか。これまでスペインのハウメー世大学大学院で平和学の集中講義してきた。イラクの大学院生には、憲法9条を持つ日本への尊敬の念を感じた。スペインでイラク戦争に反対した大学と市民の平和活動に関わった。日本の大学で留学生を含め、平和学を英語で担当してきた。様々な国の学生と広島・長崎へ行き、そこでは歴史観の違い、相互理解について考えさせられた。また平和学は平和研究者だけのものではなく、市民が取り組んでいる。高知の平和資料館「草の家」の活動を紹介したい。(中国への平和の旅など)

平和学の研究成果は、平和教育で多くの若者や人々と共有することができる。全国の平和資料館のネットワーク(平和のための博物館市民ネットワーク)と「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP)に1992年から携わっている。ここでは平和教育や平和活動を推進している。本会の「9条地球憲章 日本発モデル案」を広めるひとつの手段として、平和のための博物館を生かすことができるのではないだろうか。(平和のための博物館は、丸木美術館のような美術館や平和センターも含まれている。)

連絡先 9条地球憲章の会事務局 9.globalpeace@gmail.com

HP <https://www.9peacecharter.org/>

FB <https://www.facebook.com/9peacecharter/>